

通勤・住居対策、 コミュニケーション対策など

最優秀賞

全額公費で2カ所の交差点に 音声対応装置と点字ブロックを設置

中村忠能さんは、前述した三菱化学の単身赴任者寮に住んでいるが、防災対策として警備会社に依頼して、室内の火災警報センサーと非常連絡設備、首にかけて携帯できる押しボタン式非常通報装置を会社負担で設置している（設備のリース料込みで月額10,000円）。また、建物の入口部分にある階段に手すりを取り付けた。

また、中村真規さんはバスとJRを乗り継いで片道約1時間半かけて通勤しており、全従業員の中でも最も遠距離の通勤者である。通勤時間帯がラッシュ時のため、安全・健康への配慮から混雑しない車両への乗車が可能な特急列車での通勤定期券を通勤手当として支給している（通勤定期の増加分月額15,000円）。

通勤途中に信号機のある交差点を横断するため、2人が横断する黒崎駅北口近くの交差点と中村忠能さんが横断する単身赴任者寮近くの交差点の2カ所に、音声対応装置と点字ブロックを設置することを所轄警察署に陳情。全額公費負担での設置が実現した。



首にかけているのは押しボタン式の非常通報装置。このボタンを押すと、警備会社へ通報され、異常連絡をすることができる。



所轄警察署に陳情し、通勤途中の信号機のある交差点に、音声対応装置と点字ブロックを設置してもらった。



社宅はアパートの1階部分にあるが、玄関入口まで階段があるため、手すりを設置した。



従業員全員とのコミュニケーションを 重視したソフト面での配慮

挨拶・声かけは、障害者全員への配慮として実行しているが、特に視覚障害者に対しては会話の前に必ず名前を名乗るように心がけている。

また、職業コンサルタントと障害者職業生活相談員は、障害者の仕事や生活面でのサポートを必要に応じて行っているが、特に、視覚障害者については入社直後は通勤に不安があったため、寮や駅からの送迎を行っていた。現在は単独での徒歩通勤が可能になったが、大雨や積雪時などには必要に応じて車（タクシーなど）の利用を認めている。さらに、本人が希望すれば、通院や買い物などに職業コンサルタントが同行するようにしている。

メールを使ったコミュニケーションが画面読み上げソフト付きのパソコンで可能なため、聴覚障害者を含む社員全員とのコミュニケーションが円滑になった。同社では、今後ともこのような意思疎通を積極的に図っていくように心がけていくことにしている。

そのほか、健常者では分かりにくい、障害者の心のバリアをどうしたら排除できるかをテーマに、チームリーダー以上の従業員25名が月2回勉強会を開催（1～2時間）し、カウンセリングに関する本などを教材にして話し合いを行っている。さらに、年2～3回ほど講師を招いた勉強会も行っている。

このように、ハード面、ソフト面でさまざまな手厚い配慮をしているが、同社の基本的な考え方は、視覚障害者もそのほかの障害者もそれ以上の特別扱いはせず、「自分のできることは自分でやる」という、あくまで自立を前提に対応することになっていることだ。そして、健常者を含めてすべての従業員が支え合って健康で働きやすい環境＝ノーマライゼーションを実現することを目指している。

社員への受け入れ教育

本人への教育研修

設備改善

支援機器導入

職域・能力開発

介助者

意欲・意識改善

障害者雇用の推進に尽力